

1. 調査概要

1.1. 調査目的

これまで飲用水に対する生活者の反応については数多くの調査がなされてきた。水道事業者は水道水の質や価格、おいしさについて、またボトルドウォーター事業者も業界団体等でその消費量等を調査している。ミツカン水の文化センターでも過去 17 回にわたり「水に関する生活意識調査」を行い、水道水に点数をつけてもらってきた。これら調査の多くは水の味や用途を含む水消費について調べるものがほとんどであった。

しかし、いま、これまで顧みられてこなかったテーマが現れつつある。それが現代の「水運び」である。

現在でも水道が普及していない開発途上国で「水運び」はよく見られる姿である。しかし、日本では水道普及率が 97.5% (2010 年度現在) となっており、かつては日本でも見られた水運びの姿は見られなくなって久しい。しかし「現代の水運び」、すなわちボトルドウォーター等の入手・運搬は珍しい姿ではない。これをどう考えるか。そのためには、三つの謎を解かねばならない。

第一の謎は「集合住宅居住者は水道水をどの程度飲むのか」という謎である。少なからぬ集合住宅居住者が水道水について「おいしくない」と感じている声が聞こえてくる。現在日本の分譲マンション居住者は 1400 万人 (国土交通省推計) と推計されている。つまり日本人の 10 人に 1 人がマンション居住者ということになり、賃貸居住者も含めればさらに増える。水道は普及していても、集合住宅居住者がどの程度水道水を飲んでいるのか、その実態がわからないのである。

第二の謎は「ボトルドウォーター入手・運搬を集合住宅居住者は負担と感じているのか」という謎である。集合住宅居住者が水道水をさほど飲んでいないとするならば、代わりにボトルドウォーター等を入手することになる。ミネラルウォーターの一人当たり年間消費量を見ると 2006 年～2010 年は約 18 リットル～19 リットルで推移している。2010 年も 19.8 リットルであったが、2011 年には 24.8 リットルと 5 リットルも増加している (日本ミネラルウォーター協会資料)。防災備蓄用に増えたことも考えられるが、ミネラルウォーター消費量が右肩上がりで見えている事実には変わりはない。ボトルドウォーター飲用者はそれを入手したら、何らかの手段で運ばねばならない。集合住宅居住者はそれを重くて不便と意識しているのだろうか。それとも毎日の買い物なので便利・不便を言い立てる対象と見ていないのだろうか。

そして第三の謎は、「ボトルドウォーター入手者が水運びに疲れた時、水道飲用者に戻るか」という謎である。居住者が高齢化して、ボトルドウォーター等を持ち運ぶ余裕がなくなった時、居住者はあらためて水道水飲用者に戻るものであろうか。それとも、何としてもボトルドウォーターを飲もうと、誰かに運んでもらうのだろうか。現在、スーパー、コンビニエンスストア、チェーンストア、ドラッグストア等、多様な小売店が宅配事業に参入している。水道水を拒否する人々は、自宅に水道があるにもかかわらずこのサービスを利用しているのだろうか。

このように考えると、集合住宅居住者にとっての「現代の水運び」を調べると、水道水とボトルドウォーター等の関係がどのように意識されているのかがわかってくるはずだ。

それは、いわゆる買い物弱者問題を考える手がかりにもなるテーマだろう。

そこで、本調査では、東京都集合住宅居住者の40歳代～70歳代の人を対象に、水道水やボトルドウォーター等がどの程度飲まれているのか、ボトルドウォーター等はいかにして運ばれているのか等、「集合住宅居住者の飲用水運搬志向」に焦点を当てた意識実態調査を行うこととした。

あらためて、本調査の特徴を記すと以下の通りとなる。

- ① 東京都の40歳代～70歳代の集合住宅居住者は水道水を飲用しているのか。
 - ② 代わりのボトルドウォーター等をどのように運んでいる、あるいはどのような運搬サービスを利用しているのか。
 - ③ ボトルドウォーター等が入手できなくなったら、利用者は水道水に戻るのか。
- 本報告書では、以上の3点を中心に報告を行う。

1.2.調査概要

(1)調査対象者及び調査対象数

東京都内で40歳～79歳の集合住宅3階以上の居住者で、水道水以外の水を飲んでいる方386名。

表1.年齢別調査対象者数

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	総計
男性	50	50	50	50	200
女性	50	50	50	36	186
総計	100	100	100	86	386

参考までにスクリーニング調査にて行った、東京都内40歳～79歳の集合住宅3階以上の居住者の水道水の飲用状況は次の通りである。

表2.普段の自宅での水道水の飲用状況

	総計	構成比
水道の水しか飲まない	778	25.7%
主に水道の水を飲むが、たまに水道以外の水を飲む	940	31.0%
たまに水道の水を飲むが、主に水道以外の水を飲む	595	19.6%
水道以外の水しか飲まない	714	23.6%
総計	3027	

なお今回の調査は、「水道の水しか飲まない」と回答した人を対象外とし、調査を行った。

(2)調査方法：インターネット調査

(3)調査期間：平成24年12月12日（水）～12月25日（火）

※割合については四捨五入して表記しているため、合計が100にならないことがある。

1.3.回答者の属性

回答者の年齢別居住地は次の通りである。

表 3.回答者の年齢別居住地

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	総計	構成比
東京都23区内居住者	86	80	78	68	312	80.8%
多摩地域居住者	14	20	22	18	74	19.2%
総計	100	100	100	86	386	

回答者の80.8%が東京都23区内居住者である。

年齢別、居住階数別回答者数は次の通りである。

表 4.年齢別、居住階数別回答者数

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	総計	構成比
3～5階	58	57	57	41	213	55.2%
6～10階	25	30	36	36	127	32.9%
11～15階	12	12	7	6	37	9.6%
16階以上	5	1	0	3	9	2.3%
総計	100	100	100	86	386	

3～5階居住者が55.2%、6～10階居住者が32.9%、両方で全体の88.1%となる。

年齢別、エレベーターの有無別回答者数は次の通りである。

表 5.年齢別、エレベーターの有無別回答者数

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	総計	構成比
エレベーター有	80	83	82	76	321	83.2%
エレベーター無	20	17	18	10	65	16.8%
総計	100	100	100	86	386	

全体で83.2%がエレベーターが設置されている建物に居住しているが、70歳～79歳だけでみると88.4%がエレベーター設置住宅に居住している。

年齢別、居住人数別回答者数は次の通りである。

表 6.年齢別、居住人数別回答者数

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	総計	構成比
1名	32	28	13	19	92	23.8%
2名	35	29	52	54	170	44.0%
3名	16	23	25	8	72	18.7%
4名	15	15	8	2	40	10.4%
5名	2	2	1	0	5	1.3%
6名	0	3	1	3	7	1.8%
総計	100	100	100	86	386	

44%が2名での居住となっている。親、子、夫婦など2名同居の内訳については調査していない。

年齢別、職業別回答者数は次の通りである。

表 7. 年齢別、職業別回答者数

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	総計	構成比
会社員・公務員	59	52	22	2	135	35.0%
自営業・自由業	16	12	10	8	46	11.9%
学生	0	0	0	0	0	0.0%
専業主婦	15	21	22	20	78	20.2%
有職主婦(正社員、フルタイム勤務)	1	1	0	1	3	0.8%
有職主婦(パート、アルバイト)	2	7	8	1	18	4.7%
無職	2	3	32	47	84	21.8%
その他	5	4	6	7	22	5.7%
総計	100	100	100	86	386	

年齢別、自動車、自転車等の所有別回答者数は次の通りである。

表 8. 年齢別、自動車、自転車等の所有別回答者数（複数回答）

	40～49歳(n=100)	50～59歳(n=100)	60～69歳(n=100)	70～79歳(n=86)	総計(n=386)	構成比
自動車(1台)	32	39	39	28	138	35.8%
自動車(2台以上)	6	3	3	0	12	3.1%
バイク	4	8	4	4	20	5.2%
自転車	54	63	69	47	233	60.4%
所有しているものはない	29	22	18	26	95	24.6%

自転車の所有率が 60.4%、自動車 1 台の所有率が 35.8%と続くが、「所有しているものはない」という回答者も 24.6%となっている。